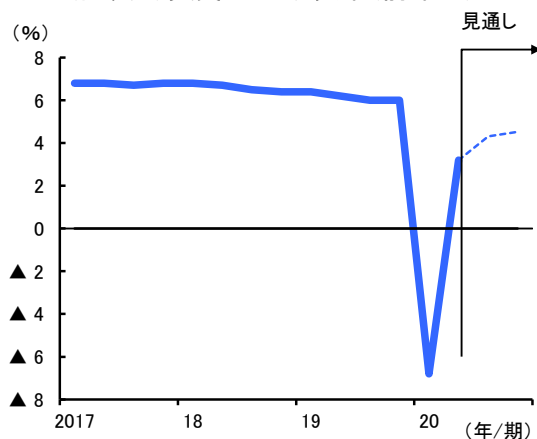


年後半の中国経済は回復ペースが鈍化

～在庫調整、外需の停滞、所得不安が重石に～

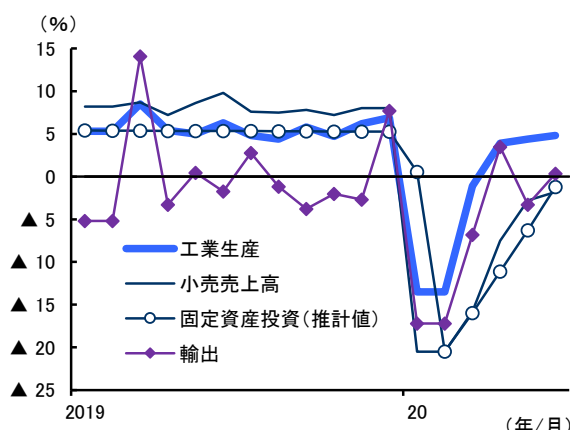
- (1) 中国の4～6月期の実質GDPは前年同期比+3.2%とプラス転換(図表1)。工業生産が早くも4月から前年同月比+4%程度の増加に転じており、供給の急回復が成長率を牽引した格好(図表2)。一方、需要側の統計をみても、輸出、小売売上高、固定資産投資が持ち直し。
- (2) 近年、企業活動に対する政府の影響力が高まるなか、中国政府による経済活動の再開指示を受け、企業が操業を急いで再開。その結果、2月に仕事を失った出稼ぎ労働者約5,000万人のうち約3,500万人は職場に復帰。社会保障費の減免や企業への銀行融資拡大などもあいまって、企業倒産の急増、雇用悪化、消費減少という負の連鎖を回避。もともと、生産増に需要が追いついていないため、在庫が大きく積みあがり(図表3)。
- (3) 今後を展望すると、在庫調整が工業生産の足かせに。加えて、世界経済の停滞によって、輸出は再び減少に転じる見通し。さらに、家計や企業は所得不安を払しょくできず、個人消費・設備投資の回復力は脆弱。実際、収入見通しDIは過去最低水準(図表4)。民間企業も資金繰り難に直面しており、総じてみると設備投資に慎重。年後半の景気回復ペースは鈍化する公算大。

(図表1) 実質GDP成長率(前年比)



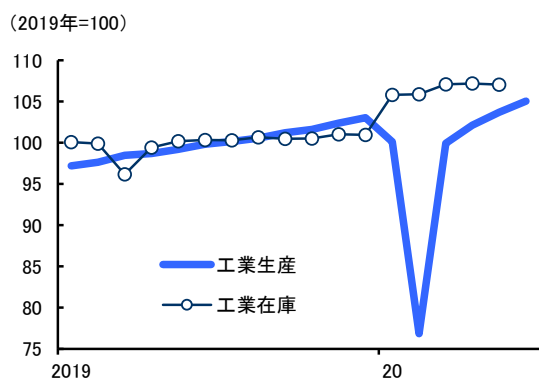
(資料) 国家統計局「国民経済計算」を基に日本総研作成

(図表2) 主要経済統計(前年比)



(資料) 国家統計局「规模以上工业增加值」「社会消费品零售总额」「全国固定资产投资」、海関総署「貿易統計」
(注) 固定資産投資を除き、1月と2月の値は1～2月の合計。

(図表3) 工業生産と工業在庫(季調値)



(資料) 国家統計局「规模以上工业增加值」、CEIC「工業在庫」を基に日本総研作成

(図表4) 収入の見通しDI(季調値)



(資料) 中国人民銀行「城鎮儲戸問巻調査報告」
(注) 収入の見通しDIは「将来の収入増加」-「減少」+50、調査対象は全国2万世帯、日本総研が季節調整。